

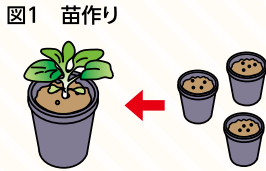
ブロッコリー(アブラナ科アブラナ属)

ブロッコリーは冷涼な気候を好み、生育適温は18〜20度です。小さいときは高温に強いが、つぼみの肥大期には耐暑性が弱くなります。一方、耐寒性もあまり強くなく、氷点下2度以下で凍害を受けます。

7月下旬〜8月中旬にまき、11〜12月に頂部の花蕾(からい)を収穫し、その後側枝から小さい花蕾を春まで取り続けます。

【品種】花蕾が作られる早晩で早生、中生、晩生に分けられます。中生品種が作りやすく頂・側枝花蕾兼用の「ハイツSP」(タキイ種苗)、「緑嶺」(サカタのタネ)などが一般的です。「スティックセニョール」(サカタのタネ)は小さいつぼみで茎が柔らかく、たくさん取れる家庭菜園向き品種です。

【苗作り】直径75〜9cmのポリポットを使い1ポット当たり3〜4粒をまき、本葉2〜3枚以上で1株に間引きます(図1)。苗作りの期間中は、寒冷しやで害虫の飛来を防ぎます。



【畑の準備】 植え付け2週間前に、1平方m当たり苦土石灰100gをまいて、深く土を耕しておきます。植え付け1週間前に畝幅70〜80cm、深さ20cmの溝を掘り、この溝1m当たり化成肥料(NPK各成分10%)100gと堆肥2〜3kgを施し、土を戻してよく

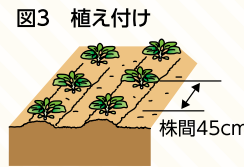
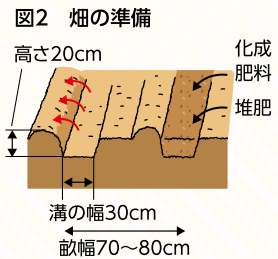
混ぜて、高さ10cm程度の畝を作っておきます(図2)。

【植え付け】 本葉4〜5枚の頃、株間45cm程度に植え付けます(図3)。植え付け前には、植え穴に十分灌水(かんすい)して植え傷みの少ないようにします。

【追肥】 追肥は植え付け後20日ころ株元に化成肥料を1株10gくらいまいて、土寄せします。2回目は花蕾が見える頃に施用します。また、頂部の花蕾を収穫後、側枝の発生を促すため、10gくらい与えます。

病害虫防除(ヨトウムシ、コナガなど)が多いので、トアロー水和剤CTなどで駆除します。

【収穫】 花蕾が大きくなり、小さいつぼみが見え、固く締まった状態が収穫適期。長さ15〜20cmに切り取ります(図4)。頂枝花蕾の収穫後、側枝から発生する小さい花蕾を春まで取り続けることができます。



※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



栽培計画

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春まき 初夏どり 栽培			○	🌱	🌱	🌱	🌱	🌱	🌱	🌱	🌱	🌱
夏まき 秋・冬どり 栽培						🌱	🌱	🌱	🌱	🌱	🌱	🌱

○ 種まき □ フレーム内加温育苗 🌱 植えつけ 🌱 収穫

JAグリーン津店が
ブロッコリー
栽培のポイント
教えます!

JAグリーン津店
グリーンアドバイザー 認定
城博一

ブロッコリーは、連作障害を避けるために、同じ場所での栽培間隔を2〜3年開けるようにします。水はけが良く、日当たりの良い場所を好み、湿った場所を特に嫌うので注意し、ブロッコリーに適した場所を選びましょう。

早生〜晩生までさまざまな種類があり、頂花蕾だけを収穫するものと、脇芽も収穫できる2つのタイプがあります。家庭菜園で栽培するのであれば、脇芽も収穫できるタイプがおすすです。

【害虫について】
防虫ネットが効果的で、土を隙間なく被せることがポイントになります。